

1 事業名等(Plan 1)

事業名	地域FM放送等活用事業									
所属名	企画管理部 企画課 企画グループ									
第七次総合計画	政策	6	着実な構想の推進をめざして	分野	1	市民参画	基本 施策	1	市民と行政が協働してまちづくりに取り組む	施策
予算科目	2	1	5	広報	費	20551	広報広聴			事業
					費					事業
					費					事業
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	-									
事業の実施主体	○ 市 市以外→									
事業の実施方法	直営 指定管理 ○ 業務委託 団体等補助 その他→									

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	高山市民及び観光客など	受益者数	-	人
目的	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	地域FM放送を通じて、高山市民については市政の現状・課題・今後の方向性等を周知することで市民協働のまちづくりを促進する。また、観光客に対してはイベント情報、駐車場情報などを提供し、利便性の向上、誘客の強化を図る。			
概要	事業の実施手法、手順	地域FM放送において、市からのお知らせである「シティーインフォメーション」、市の施策やイベントなどをお知らせする「広報たかやま増刊号」、市議会開会中に一般質問の内容などをお知らせする「市議会インフォメーション」などを放送するほか、駐車場情報、安心安全情報を随時提供する。			
概要	事業始期・終期	始期	年度から	始期	年度まで
概要	今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 自動起動防災ラジオの自動起動を活用して、毎日定時(12時及び18時)にシティーインフォメーションを放送するほか熊の目撃情報や火災警報、食中毒警報なども随時放送。			

3 事業費の推移・結果(Do)

【コスト面】		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
区分							
総合計画計画額(当初)		30,000	30,000	30,630	31,000	31,000	
総合計画計画額(計画額)		30,000	30,000	30,630	31,000	31,000	
事業費	予算額	27,008	30,000	30,630			
	決算・見込	25,211	30,000				
財源	国庫支出金	予算額					
		決算・見込					
	県支出金	予算額					
		決算・見込					
	地方債	予算額					
		決算・見込					
	受益者負担	予算額					
		決算・見込					
	繰入	予算額					
		決算・見込					
一般財源	予算額	27,008	30,000	30,630			
	決算・見込	25,211	30,000				
H17国勢調査 96,231人 32,174世帯 ※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価							
コスト	受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位	%				
コスト	市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位	円/人	262	312		
コスト	1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位	円/世帯	784	932		
コスト	受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位	円/人				
コスト	その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位	円/人				

【成果面】

活動・成果指標	活動指標	投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標	指標名	情報発信量	資料・出展 算出式	放送時間	単位	分
	活動指標	目標値	実績値	達成率				活動の方向
	活動指標	目標値	実績値	達成率				→
活動・成果指標	成果指標	活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたのかを表す指標	指標名	受信エリアの拡大	資料・出展 算出式	聴取可能世帯数 / 全世帯	単位	%
	成果指標	目標値	実績値	達成率				成果の方向
	成果指標	目標値	実績値	達成率				→

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)		A:非常に高い		目的評価 A
(現状及び判定理由)	情報伝達手段としては、広報紙などの紙媒体のほか、インターネット、ラジオ、テレビ、メールなど数多く有することが必要である。	B:高い		
		C:低い		
		D:非常に低い		
②コスト面評価(事業費の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)		項目		②コスト面
該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)		増加	維持	減少
減少				1
(判定理由)	自動起動ラジオの導入に伴う放送設備の維持管理費が増加			
③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)		拡大		コスト・成果ポジション C 第3水準
該当項目「1」入力(注:平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)		維持	減少	
拡大	1			
(判定理由)	自動起動ラジオの導入に伴う放送設備の整備により聴取可能世帯が増加			

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→	I「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→	II「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→	III「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→	IV「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→	V「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

分析・評価(Check)により明らかになった課題・問題点

情報発信量は、現在の水準を維持する必要があるが、放送内容については検討が必要である。

5 今後の方向性(Action)

活動の方針	評価結果に対する改善提案(下記チェック)	現状維持 ■ 改善・継続 ■ 終期設定 ■ 休止 ■ 廃止 ■ 完了 ■
	FM可聴域の拡大や自動起動防災ラジオの普及により受信世帯数が増加することから、より充実した内容を提供するとともに、地域バランスを考慮した情報提供を行う。	
	次年度の実施方針	聴衆者にとって有益な情報、ニーズにあった内容を検討していく。

一次評価 主管課	III
評価区分	III
判断の理由	FM可聴域の拡大や自動起動防災ラジオサービスの開始に伴い、コンテンツの充実を図る必要がある。

総合評価		
コスト	成果	評価区分
中	中	III
判断の理由等		
「II」以上の水準に向けた改善が必要		
FM可聴域の拡大や自動起動防災ラジオの普及により、ヒッツFMの聴取者は増えると考えられる。自動起動防災ラジオでは毎日2回自動起動により市からのお知らせを放送しているが、現在のところその内容はあまり市民の興味をひくものとなっていない。そのため、自動起動の放送内容を検討し、より市民が興味を持って聞いてもらうことができれば、他の番組への誘導にもなる。また、事業者に対し、聴取率を把握するよう求めることが必要である。		